

ウッドデザイン賞 2019

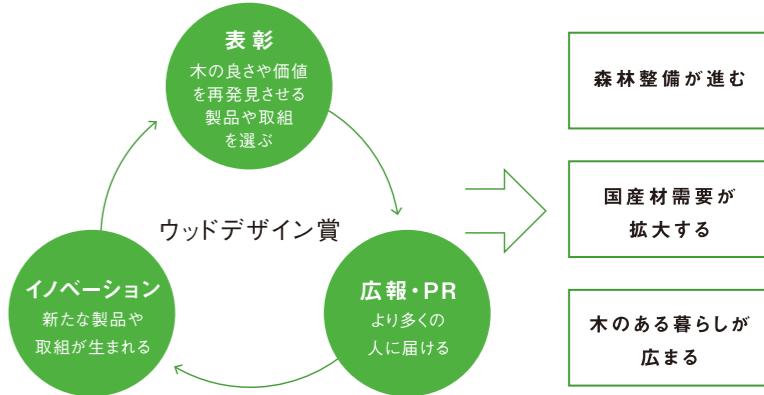
上位受賞作品のご紹介



JAPAN WOOD DESIGN
AWARD 2019

ウッドデザイン賞とは

ウッドデザイン賞は、「木」に関するあらゆるモノ・コトを対象に、暮らしを豊かにする、人を健やかにする、社会を豊かにするという3つの消費者視点から、優れた製品・取組等を表彰するものです。



△ ウッドデザイン賞2019実施概要

- 主催:ウッドデザイン賞運営事務局((特)活木活木森ネットワーク、(公社)国土緑化推進機構、(株)ユニバーサルデザイン総合研究所)
- 林野庁補助事業
- 募集期間:2019年6月20日(木)~7月31日(水)

● 応募対象分野

① 建築・空間・建材・部材分野	店舗、施設、オフィス、住宅、建材、部材等
② 木製品分野	家具、インテリア、食器、日用品、雑貨、文具、遊具等
③ コミュニケーション分野	ワークショップ、プロモーション、人材育成、ビジネスモデル等
④ 技術・研究分野	技術、研究、試作品等

● 表彰部門

ライフスタイル デザイン部門

木を使って
暮らしの質を
高めているもの

木を使うことで機能性や利便性を高めてい
る、新しい領域で木の活用が提案されてい
る、消費者に木のある豊かな暮らしを提案
している、建築、空間、木製品、コミュニケ
ーション、技術・研究など。

ハートフル デザイン部門

木を使って
人の心を豊かにし、
身体を健やかにしているもの

木を使うことで快適性を高めたり、五感や
感性に働きかける、リラックス効果や健康
増進効果がある、作り手や担い手のストー
リーリー性を伝えている、建築、空間、木製品、
コミュニケーション、技術・研究など。

ソーシャル デザイン部門

木を使って
地域や社会を
活性化しているもの

木を使うことで地域や森林の活性化に貢
献している、持続可能な森林利用の仕組み
を生み出している、木材利用の意味を啓發
したり、人材育成をしている、建築、空間、木
製品、コミュニケーション、技術・研究など。

● 応募～発表・PRまでの主な流れ

応募受付期間(2019年6月20日~7月31日) ▶ 第一次審査(書類・資料による審査) ▶ 第二次審査(現物・映像を含む審査) ▶
ウッドデザイン賞(入賞)結果通知・発表 10月25日 ▶ 最終審査 ▶ 最優秀賞、優秀賞、奨励賞・特別賞発表 11月20日 ▶
表彰式(「エコプロ2019」)12月5日(木) ▶ 展示・セミナー(「エコプロ2019」)12月5日~7日 ▶ ブックレット、展示会等でのPR

● 公式ウェブサイト

<https://www.wooddesign.jp/>

ウッドデザイン賞に関する最新のイベント・展示情報や
次回開催のお知らせなどを随時、更新しています。
最新情報をお届けしますので、メールアドレス登録をお願いします。

● 公式フェイスブック

 ウッドデザイン賞
@wooddesignaward

受賞作品情報や審査員メッセージ、各種イベントなどのニュースを
タイムリーにお届けします。





審査委員長 赤池 学 プロジェクトデザイナー、科学技術ジャーナリスト。(株)ユニバーサルデザイン総合研究所所長。
地域の資源、技術、人材を活用した数多くのものづくりプロジェクトを指揮する。

ウッドデザイン賞も5回目を迎え、建築、木製品を始め、格段に作品のクオリティが上がっていることを強く実感している。森林環境譲与税が始まっているが、多くの林業自治体、それと連携する都市側の自治体の取組が、その活用の好事例として全国に広まっていくことを期待している。木製品では過去にも優れた家具や建具、調度品などが受賞しているが、今年は木製ストロー、ファブリックなど新たな領域に木を使っていくためのシンボルとなる作品も多く見られた。全国の木を活用した取組に関わる自治体や事業者が、こうした先進例の受賞者と協業の形で手を結び合い、バリューチェーンを築いていくことが重要である。例えば、異業種の企業の持つ技術やクリエイティビティ、商流と組むことで、林業自治体や中小事業者のプロダクトのクオリティもさらに上がりていくだろう。「売り方」も含めたウッドデザインの6次製品化、6次産業化、木を活用するエコシステムが全国に根付くことを願っている。

★分野長

建築・空間・建材・部材分野



隈 研吾★

日本には木と長く付き合ってきた歴史があり、街中にも古い木造建築物がたくさんある。新旧の木つかいが響きあい、相乗効果を生むことは地域にとってかけがえのない財産となる。



腰原幹雄

現代的な価値観のなかでの木造建築も多く、素晴らしい作品が多くなった。最先端を目指す木造建築と昔ながらの木造建築が融合して、また新たな価値を生み出すことに期待する。



鈴木恵千代

木は日本の空間デザインに対して大きな影響を及ぼすものの、評価ではその視点を大切にした。CLTも新しく、日本らしい使い方が増えてきた。今後もさらに上を目指して欲しい。



手塚由比

木はそれらしい所にそれらしく使うことで、その良さをひきだすことができる。できたものの美しさ、それを生み出すまでのコンセプト、2つを両立させた作品であることが重要だ。

木製品分野



益田文和★

「なぜ日本のローカルな木を使うべきなのか」を考え、環境に対するネガティブな影響に対し、木材を使ったデザインで何ができるのか、を明確に表現できる作品の登場に期待したい。



島村卓実

木の素材を活かした生活に溶け込むような作品も見られた。木が持つ個性や香り、はとども面白い。これからは地域や森のストーリーが見える製品開発に取り組んではどうか。



高橋正実

今回は五感に訴える、非常に楽しい作品に出逢えた。日本の美意識は木との関係の中にあり、無駄がなく、心地よいもの。この賞はそれ再び取り戻すような場所でありたいと願っている。



矢島里佳

木を命として捉える、自然の循環の一部として捉える作品が増えてくるとよいと思う。最も大切なプロセスのデザインを考え、それをしっかりと伝えてもらえると嬉しい。

コミュニケーション分野



日比野 克彦★

人が接するコミュニケーションにおける木の評価は数値化が難しい。温もりや加工しやすさなど、よく聞く装飾語以外の、木に対する評価の基準や言葉を見つけることが大切だ。



戸村亜紀

時代は大きく変わっており、今までの経済活動のままでズレが生じる。自然の財産を収奪するのではなく、自ら再生して生み出していくことで持続可能なプログラムとなるだろう。



古田秘馬

時代に求められているのは、「多付加価値」。どれだけのステークホルダーが関わるか、そのプロダクトがどんな波及効果を生むのか、それを一言で表現できることが重要だと思う。



山崎 亮

本分野では、それが感性を刺激するものであるか、が大切なポイント。審査をしていると相乗効果がありそうな作品も多い。誰と組むとさらに魅力的になるか、を考え実践して欲しい。

技術・研究分野



伊香賀 俊治★

技術・研究は作り手側の観点に重点が置かれがちだが、例えば建築物の場合は住む、使う人間が存在する。そこに木材がどのような効用をもたらすかという部分も着目すべきである。



相茶正彦

木材関連の技術開発の面ではかなり進んできた感があり、新規性あるものが少なくなっている。今後は木を利用しつつ地域を元気づける、といった複合型事業の提案に期待したい。



青木謙治

試作は開発したが、その性能を示すデータ収集等が足りないと思えるものが多くなった印象。新たな技術、新たな発見と、それを裏付けるエビデンスの双方が揃うと評価は高くなる。



恒次祐子

本分野ではエビデンスを重視しており、データをもっと揃えて欲しいと思える提案も見られた。社会へ普及する、一般化できる技術・研究が大事であり、そうした取組を重視したい。

△受賞後の展開

ウッドデザイン賞の受賞作品は以下の特典、広報が受けられます。

- ウッドデザインマークの使用

ウッドデザイン賞を受賞した作品は、ウッドデザインマークの使用が認められます。

マークを表示することで受賞の成果を訴求することができます。

ウッドデザインマークのデザインについて

日本の豊かな森の恵みを表す三角形に、「WOOD DESIGN」(W)を重ねたイメージ。アンシンメトリー(左右非対称)に連なる造形は、暮らしを豊かに、人を健やかに、地域と社会を活性化する多彩なスケールの木づかいが生まれていく、という意味を込めています。
デザイナー:則武 弥

- 「エコプロ2019」における表彰及び広報

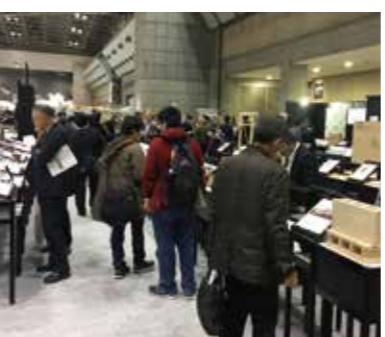
最優秀賞等の表彰、及びウッドデザイン賞の受賞作品の展示を「エコプロ2019」(表彰は2019年12月5日、展示は12月5日~7日・東京ビッグサイト)にて行います。同展では受賞者、審査委員によるプレゼンテーション、交流会なども行います。ウッドデザイン賞の作品情報等を収録したブックレットを製作し、受賞者ならびに自治体やメディア、関連業界へ配布します。受賞作品の広報・PRにお使いいただけます。

- 展示会等での消費者、小売・流通事業者への訴求

各地域で実施される展示会、交流会等で受賞作品の展示及びPRを行います。

- メディア・流通小売との連携企画の推進

メディアや流通小売業と連携して、ウッドデザイン賞の趣旨を伝えるとともに、受賞作品の掲載・露出・PRを行います。



2008広報イベントの様子

- ウッドデザイン・サポート連絡会 私たちはウッドデザイン賞を応援しています。

全国森林組合連合会

一般社団法人 全国木材組合連合会

一般財団法人 日本木材総合情報センター

一般社団法人 全日本木材市場連盟

公益財団法人 日本住宅・木材技術センター

森を育む紙製飲料容器普及協議会

日本集成材工業協同組合

日本合板工業組合連合会

一般社団法人 日本フローリング工業会

一般社団法人 全国木造住宅機械ブレカット協会

日本木材防腐工業組合

公益社団法人 日本建築士会連合会

公益社団法人 土木学会 木材工学委員会

一般社団法人 日本建材・住宅設備産業協会

一般社団法人 日本木造住宅産業協会

一般社団法人 JBN

一般社団法人 全国中小建築工事業団体連合会

公益社団法人 国際観光施設協会

一般社団法人 日本オフィス家具協会

特定非営利活動法人 芸術と遊び創造協会／東京おもちゃ美術館

一般社団法人 日本インテリアコーディネーター協会

林業復活・地域創生を推進する国民会議

美しい森林づくり全国推進会議

一般社団法人 日本森林学会

一般社団法人 日本木材学会

木材利用システム研究会

一般社団法人 全国LVL協会

全国天然木化粧合板単板工業協同組合連合会

一般社団法人 木と住まい研究協会

公益財団法人 PHOENIX(木材・合板博物館)

日本複合・防音木材工業会

農林中央金庫

最優秀賞（農林水産大臣賞）

()内の「都道府県」は建築物などの所在地、活動が実施された地域で、一般に流通しているもの・特に該当しないものは主な受賞団体所在地です。



ソーシャルデザイン部門 技術・研究分野

日本初となる 中高層木造ハイブリッド建築を 実現する技術の実証

三菱地所株式会社(東京)、株式会社竹中工務店(東京)、
山佐木材株式会社(鹿児島)、田島山業株式会社(大分)



鉄骨架構を部分的に木質化した、
国内初の高層10階建ての集合住宅の建設にあたり、木造ハイブリッド化における構造性能や耐火性能、
居住性能といった住まい手の安全
や利便性の技術検証を行うとともに、
工期短縮によるコストメリットも実現している。これまで低層の建築物にしか使われてこなかった木構造部材を中高層ビルに活用することで、
木材利用の新たな可能性を拓くとともに、ここで培われた各種技術が今後、非住宅分野への木造建築にも活かされていく、総合的な取組としてウッドデザイン賞の趣旨にふさわしいと考えられ、最優秀賞とした。

特別賞（木のおもてなし賞）

ソーシャルデザイン部門 建築・空間分野

神田明神文化交流館EDOCCO(東京都)

神田神社(東京)、(株)乃村工藝社(東京)、鹿島建設(株)(東京)



神社機能、物販店舗・カフェ、イ
ベントホールから構成される、日
本の伝統文化を伝えるための神
田明神境内にある複合施設。
神社の莊厳さを継承しつつ、ここ
を訪れる人のコミュニケーションを
促す空間づくりに成功してい
る。神田明神が祀る「平将門」の
伝説が多く残る「多摩地区」の
杉材を用い、物語性を訴求する
ことで、伝統文化と地域の歴史
を伝えてくれる。

ライフスタイルデザイン部門 木製品分野

Hako

(有)豊岡クラフト(静岡)、アトリエたくみ(フランス)

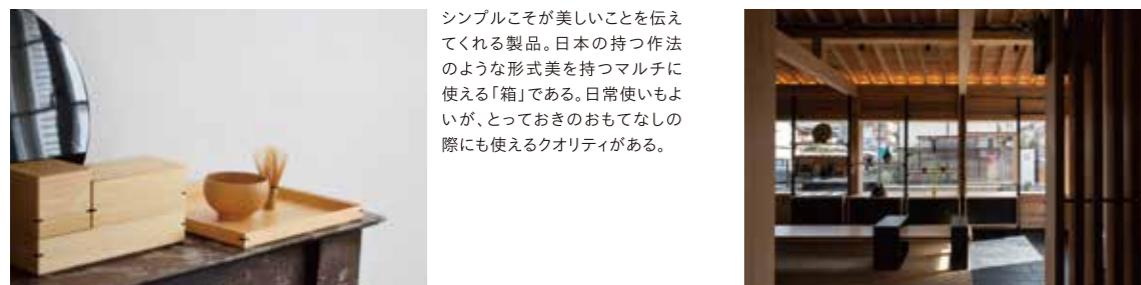


シンプルこそが美しいことを伝
えてくれる製品。日本の持つ作法
のような形式美を持つマルチに
使える「箱」である。日常使いもよ
いが、とておきのおもてなしの
際にも使えるクオリティがある。

ソーシャルデザイン部門 建築・空間分野

美馬旅館はなれ 木のホテル(高知県)

(有)建築設計群無垢(高知)、美馬旅館(高知)、(有)勇工務店(高知)



素朴な空間でありながら、落ち
着きや懐かしさを感じさせるホ
テルである。街並みと調和した建
物は、お遍路の際のちょっとした
休憩にも使える「縁側」のよう
な優しさがある。ここを拠点に旅の
計画を考えてみたくなるような
空間である。

優秀賞（林野庁長官賞）



ライフスタイルデザイン部門 建築・空間分野

スマート倉庫®(埼玉県)

三井ホームコンポーネント(株)(東京)



ライフスタイルデザイン部門 木製品分野

国産間伐材の木製ストロー AQRAS

(株)アキュラホーム(東京)



ライフスタイルデザイン部門 木製品分野

樹木から生まれた 神秘のファブリック

縁樹の糸(大阪)

木材チップを微粒子化し、繊維として紡ぐことで、さまざまなファブリック製品として暮らしが彩るものになっている。地域の物語性のあるスギ、ヒノキ、ケヤキなど多様な樹種から製作ができるため、生活者への訴求もしやすい。消費者目線での新たな木材利用の好例である。

奨励賞（審査委員長賞）



ライフスタイルデザイン部門 建築・空間分野

五ヶ山クロスベース(福岡県)

yHa architects(福岡)、福岡県那珂川市(福岡)、福岡
県広域森林組合(福岡)、越井木材工業(株)(大阪)、
(株)九銘協(福岡)



ライフスタイルデザイン部門 建築・空間分野

認定こども園 ミライズそら(兵庫県)

社会福祉法人柏翔会(兵庫)、(株)手塚建築研究所(東
京)、(株)吉住工務店(兵庫)

周囲の景観と調和したルーバー、緩やかな曲線を描く大階段の空
間が印象的な建物で、自然に親しむための観光拠点としてのシン
ボル的なイメージを持っている。都市と自然をつなぐ施設として、日
常のなかに安らぎを与えてくれるような優しさを演出している。



ハートフルデザイン部門 コミュニケーション分野

aroma oil blender 【Japanese wood edition】

アットアロマ(株)(東京)



ソーシャルデザイン部門 建築・空間分野

かみす防災アリーナ(茨城県)

茨城県神栖市(茨城)、清水建設・梓設計・設計共同企業
体(東京)、清水・大平建設共同企業体(東京)

鋼材を木材で補強した構造材の活用で巨大な木質空間を実
現し、地域の防災機能を持つ多目的施設として、インパクトが
ありつつ、安心感のある建築となっている。外観の意匠も隣接する
公園の景観とよく調和しており美しさが際立っている。



ライフスタイルデザイン部門 木製品分野

国産杉の頑丈キッチンラックシリーズ

(株)ディノス・セシール(東京)、ミカタ工業株式会社(兵
庫)

木の持つ重厚感と使いやすさの両立を目指しながら、入手しやすい
価格設定になっており、木のある暮らしへのいざないに最適な製品
である。コーナーの丸みなど子どものいる家庭でも安全に使える細
部への配慮もある。



ソーシャルデザイン部門 建築・空間分野

面白法人ヤック社屋 研究開発棟・ぼくらの会議棟(神奈川県)

面白法人ヤック(神奈川)、SUPPOSE DESIGN OFFICE
Co.,Ltd.(広島)、TECTONICA INC.(東京)、(株)栄建
設(神奈川)、(株)シェルター(山形)

木造住宅の多いエリアで周辺との調和を考えたオフィス空間
の新たな試みであり、人が働く場所と住宅地をつなぐ、頃合いの
良いスケール感が見事にはまっている。木質耐火部材の採
用により実現した木のあらわしの空間は、凛とした雰囲気を醸
し出している。



ハートフルデザイン部門 建築・空間分野

未来のまちに贈る家(北海道)

(株)平成建設(静岡)、網野禎昭(東京)、宮田雄二郎(東京)、新栄工建(株)(北海道)

北海道産トドマツを活用した、ローテク構法を採用した木造住宅。利用価値が課題となる主伐期を迎えたトドマツの活用や構法の工夫で地元林業や地場産業の活性化につなげている。ライフイベントに応じてフレキシブルに空間構成でき、使い継いでいくことで、持続可能な地域社会づくりに貢献する。



ライフスタイルデザイン部門 木製品分野

ちばの木 御朱印帳

(株)山二建具(千葉)

地元・サンブスギを活用した御朱印帳。すべて木でつくるという斬新な発想が面白い。墨や朱印も鮮やかに発色するため、本来あるべき機能面でも秀逸である。時代のトレンドと地域産材活用の掛け算の妙が好ましい。



ライフスタイルデザイン部門 木製品分野

フレームシステム「octagonal」

(株)イトーキ(東京)

オフィスや施設における木質化にデザインの自由度を持ち込んだ、意欲的な試みである。クラウド化が進みワークスタイルも多様化するなかで、木質空間を自在にレイアウトできるシステムはさまざまな施設、場所で活用できるだろう。



ソーシャルデザイン部門 コミュニケーション分野

木育×プログラミング教育

【MOCKUP】プログラミング教室

(株)武田林業(愛媛)、内子町(愛媛)、内子町森林組合(愛媛)、(株)藤岡林業(愛媛)

学校現場で求められているプログラミング教育と林業分野の融合というこれまでになかった発想が秀逸である。ICTと林業が近づいていく将来を見据え、これを担う、スマート林業人材育成の先進的なプログラムとして広がりが期待できる。



ハートフルデザイン部門 木製品分野

ぶればらウッド

堀内ウッドクラフト(神奈川)

主に病院で子どもに検査などの説明をする際に使う玩具。医療現場では木製品の使用が少なく、特にCT、MRIなど専門機器を必要とする検査の際に子どもの心理面での不安を払拭するためのキットとして、温かみのある木を採用している点が優れている。個々のつくりも非常に丁寧で、開発者の思いが伝わる製品である。



ハートフルデザイン部門 建築・空間分野

日本圧着端子製造 名古屋技術センター別館-Petali-(愛知県)

Atelier KISHISHITA(大阪)、日本圧着端子製造(株)(大阪)、(株)波多野工務店(愛知)、越井木材工業(株)(大阪)

美しい木格子パネルの意匠が記憶に刻まれる建築。メーカーの試験室という、人が常駐することのない場所にも木質化による快適さを提供しつつ、建築そのものが企業の持続可能な取組の情報発信のツールとなることに成功している。



ソーシャルデザイン部門 技術・研究分野

エアー鉋

シーバイエス(株)(神奈川)、(株)グランドライン(滋賀)

木表面の劣化層を木で除去する独自の技術で、歴史的建造物からウッドデッキまで社会有用性は高い。間伐材利活用や木造建築物の長寿命化へ貢献し、建物外装やエクステリアへの木材利用を促すものとして評価できる。



ソーシャルデザイン部門 建築・空間分野

屋久島町庁舎(鹿児島県)

アルセド建築研究所(東京)、屋久島町(鹿児島)、ホルツストラ(東京)、坂田涼太郎構造設計事務所(東京)、(株)ヒラウチ建設(鹿児島)、ベガハウス(鹿児島)

地元産の杉材のブランド化へ向けた取組とともに、利用する町民にとって、働く職員にとっても木質感を存分に味わえる美しいデザインの庁舎を実現。庁舎建設と材の生産・販売ネットワークの構築を同時に進めしており、建物自体が島の木材利用のプレゼンテーション拠点となっている。



ソーシャルデザイン部門 建築・空間分野

海陽町ハウスビレッジ(徳島県)

海陽町(徳島)、(株)カイトアーキテクト/京智健建築設計事務所(大阪)、マエダ建設(徳島)、坂本設備工業(株)(徳島)、野根建築(徳島)

地域の移住体験のための施設設計に地域材の良さとロケーションを組み合わせ、「地域の魅力」を感じてもらう場を作っている。家族構成ごとの間取り提案もあり、地域を体験する入り口としての住宅の在り方や同様の課題をもつ地方都市の参考となる取組として高く評価した。



ソーシャルデザイン部門 コミュニケーション分野

低温乾燥による国産杉材の付加価値向上プロジェクト

(株)中央住宅(埼玉)、(株)モリアン(大阪)、全国森林組合連合会(東京)、東京大学大学院薬学系研究科(東京)

森林組合、製材・建材メーカー、住宅メーカーの共同による「川上から川下まで」個々の強みを相互補完したプロジェクトであり、国産材の高付加価値化戦略として社会提案性が高い。大学の薬学系研究室との連携によって、香りなど木の効能のエビデンスも準備され、消費者メリットを明らかにした点も優れている。



ハートフルデザイン部門 木製品分野

組美木-kumiki-

(株)ひらつか建築(滋賀)

金物を使わず、多様な樹種の小径木を組み合わせた寄木細工のように美しい家具。木目の面白さだけでなく、軽さなど機能性も備えている。ツヅリは意匠性に富み、地域の森林資源の価値に気づかせてくれるコミュニケーションツールの役目も果たしている。



ハートフルデザイン部門 木製品分野

Gas cartridge cover [Uzukuri]

KOKAZE | 木風(千葉)、Studio Kirin(千葉)

キャンプ用ランプのガスカートリッジを覆う木製カバー。大自然の中のキャンプシーンに馴染む素朴な質感がよい。身近なアイテムに木の魅力を持ち込むとそれだけで気持ちが豊かになる、使い手の気持ちに寄り添ったアイデア溢れる製品である。



ハートフルデザイン部門 木製品分野

toy house

(株)増田桐箱店(福岡)、商品企画室トライシング(福岡)

桐箱の製造技法を活かしたパズルのような、アートのような木製玩具。精巧なつくりと素材そのものの素朴な味わいで、飽きのこない、クリエイティビティを誘発する玩具に仕上げている。組み合わせ次第でさまざまな造形が考えられ、立体的に組み上げられるファースト・トイとして秀逸な製品である。

ウッドデザイン賞 2019結果

- 総応募数 413点
- 受賞数 197点
- 最優秀賞 1点 ● 優秀賞 9点 ● 奨励賞 15点
- 特別賞 4点

Webサイトより全ての受賞作品についてご覧いただけます。

<http://www.wooddesign.jp/>

